

⑤1 浅生スポーツセンターの整備

受賞機関 北九州市

全建賞審査委員会の評価ポイント

点在する老朽化した9つのスポーツ施設を廃止したうえで、利便性の高い市中心部に再編整備した事業。計画、設計段階での住民参加により、機能的で利便性が高く、環境にも優しい施設となっているほか、災害発生時の機能についてもよく配慮された施設となっていることを評価。

1. はじめに

本市は、高度経済成長期の昭和38年、五市対等合併により誕生し、旧五市の均衡を図りながら、公共施設の整備を進めた結果、人口1人当たりの公共施設保有量が政令市の中で最大となった。

これらの施設は、10数年後に一斉に更新の時期を迎えるが、財政状況が厳しいため、公共施設マネジメント方針を策定し、施設の集約化など再構築を図ることとしている。

当該施設整備は、その集約化のモデルとして取り組んだものである。

2. 事業の概要

本市の中心部に位置する戸畑区内に九つの点在・老朽化したスポーツ施設があったため、これらを廃止し、交通利便性の高い小学校跡地に新たな施設を集約整備することとなった。

施設の概要としては、以下のとおり。

- 構造規模：3階建RC造（一部S造）約8,120㎡
- 用途：体育館（約1,500㎡）、武道場、弓道場、室内温水プール（25m級）、テニスコート6面等
- 環境対策：複層ガラス、太陽光発電システム、節水器具等の採用



交通利便性の高い小学校跡地への集約整備

なお、既存施設の廃止や新たな立地場所など、事業内容については、平成22～24年度までの3年間に、地元を含め、多くの方々へきめ細やかな説明や意見交換を実施し、事業への理解を深めた。

3. 事業の成果

九つの施設を集約整備したことにより、施設更新に係るコストの削減や管理運営の効率化を図ることができた。

また、生涯スポーツの環境づくりや健康増進の場づくりとして、幼児から高齢者まで幅広い世代が利用できる中核施設として整備されたことにより、年間利用者数が当初目標の約1.4倍に見込まれるなど、地域のにぎわいづくりや活性化に繋がっている。

加えて、体育館の規模が従前より大きくなったことから、高校生のバスケットボール大会等では、九州地区や福岡県レベルといった大規模大会が開催されており、さらなる利用者の増加やにぎわいづくりに繋がると期待されている。

さらに、広さ約1,500㎡の体育館については、大規模予定避難所に指定されており、災害時の防災拠点としての活用も期待されている。



施設外観

4. おわりに

本市の公共施設をとり巻く環境が厳しい中、この事業では、地域の活性化、効率的な施設整備・運営などで成果をあげることができたと考えている。

今回の取組みを踏まえ、今後とも様々な課題に対応した公共施設の整備に努めてまいります。

賛助会員 (株)小川建築設計事務所、(株)川口建設